

法人設立50周年を迎えて

令和 2年10月 吉日

社会福祉法人三相園福祉会

理事長 竹村 義法

社会福祉法人三相園福祉会は、昭和29年（1954年）8月に黒井町立「丹波養老院三相園」の名称を以って丹波地域初めての老人福祉事業の第一歩を踏み出し、事業開始以来66年の歳月が経過致しました。昭和45年（1970年）7月15日には社会福祉法人認可（当時は社会福祉法人丹波養護老人ホーム三相園という法人名）を受け、10月1日より社会福祉法人としてスタートし、今日法人設立から半世紀という記念の年を迎えました。この間、社会情勢が大きく変化していく中で、多くの皆様方のご理解、ご協力を頂き、養護老人ホームの2度にわたる全面改築（昭和56年、平成27年には移転改築）や特別養護老人ホーム等の2度にわたる創設（平成8年に従来型特養・ケアハウス・デイサービス、ショートステイ等、平成18年にはユニット型特養）という時代に合った施設・地域福祉の拡充整備を図ってまいりました。こういう大きな事業を達成できましたのも偏に地域の皆様方や関係機関の多くの皆様方のご支援、ご協力の賜と改めて感謝申し上げる次第です。

さて、法人認可を受けた昭和45年には高齢化率7%を超え高齢化社会に突入した年でした。それから50年後の今日では高齢化率28%を超える超高齢社会を迎え、また少子化による急激な人口減少社会の進行、それに伴う家族の変化やライフスタイル、価値観等の変化により地域における人と人との触れ合う機会の減少、地域住民同士のつながりや助け合いの精神が希薄になり、思いやりの心の欠如なども指摘されております。この半世紀の間に地域社会が大きく変わるとともに様々な住民の生活課題、福祉課題も多様化し複雑化しております。

当法人においても昭和、平成、令和と時代の変化と共に、養老院から老人ホームへ、収容の場から生活の場へ、人権の視点と専門的な介護の実践、老人ホームの地域開放、社会福祉法人基礎構造改革による社会福祉理念等の変化、社会福祉関係法律等の改正、介護保険制度施行による措置から契約へ、運営から経営へ、また多様な主体の参入、競合、そして最近では社会福祉法人制度の改革等社会福祉を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。そういう中において、環境の変化に的確に対応しつつ、今後も地域福祉事業に取り組みながら、高齢者社会の中で求められる施設、自分が入りたいと思える施設、地域に信頼され期待される施設を目指し、また地域福祉の拠点として新たなニーズにも応えられる役割も担っていきたいと思います。そして心豊かで生きがいを持って生活できる環境を築き上げていきながら、50周年を節目としてこれからも積み重ねてきた経験や技術を生かし、より一層施設、地域福祉の充実発展のために鋭意努力する所存でございます。今後共地域の皆様方、関係各位の皆様方の変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

今年2020年、令和初めての新年を迎え、夏には東京オリンピック等を控え特別な一年になるところが、未知の新型コロナウイルスによりその数か月後には世界の風景が一変し、国難とも言える一年になるとは誰も想像できなかったと思います。こういう感染拡大しているコロナ禍の厳しい中ですので、50周年の式典等は自粛させて頂きました。

今後も50年間の諸先輩方が築き上げてこられた法人の歴史を常に思いながら、また重みを感じながら、法人・施設理念の『思い』や『心』を未来へ繋げ、これからも新たな歴史を刻んで行きたいと思っております。

最後になりましたが、関係各位の益々のご健康とご多幸を心より祈念申し上げ、詞と致します。 合掌